

【先-11】『神戸未来都市創造プロジェクト』を推進する都市高速ランプの有効活用スキームに関する調査（対象箇所：兵庫県神戸市）

【実施主体】神戸市

平成26年度

調査目的・これまでの経緯

神戸市都心部では、神戸の玄関口である三宮駅付近の再整備・ターミナル機能強化及びウォーターフロント地区の魅力向上を推進すべく検討を進めている。一方、阪神高速(株)の同地区西側部分の本線の大規模更新に併せ、京橋ランプ・PAの一体的な再構築についても検討を進めている。調査対象エリアは今後の同地区におけるまちづくり・にぎわい創出における重要な核(交通・交流結節点)と位置付けられ、既存ランプの更新とまちづくりが一体となった施設整備のあり方が求められている。

そこで本調査では、道路上部空間の有効活用(立体道路制度)の活用可能性も探りながら、官民連携により、民間ノウハウも最大限活用した最適な事業展開のあり方を模索することとした。

調査結果

1. 整備方針及び開発パターンの検討

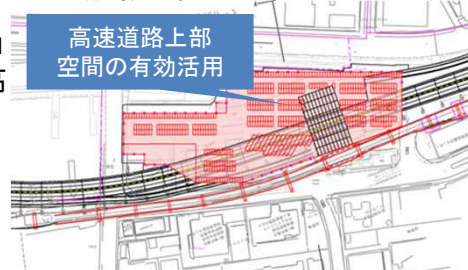
阪神高速の大規模更新と連動し且つウォーターフロント(WF)との一体的開発を促進する観点から、阪神高速の本線上及びランプ部分に、道路区域の上部空間を用いた交通結節・誘客機能を有する施設整備方針をまとめるとともに、複数の開発パターンについて比較考量を行った。

2. 官民連携スキーム等の検討

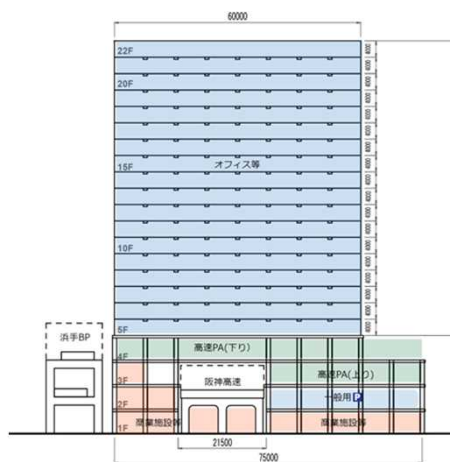
当該施設の整備・運営における検討案について、官民連携スキームや対象エリアのポテンシャル向上に資する施策について検討するとともに、事業採算性を試算した。

- 対象エリアの現在の市場条件では民間投資100%での事業性確保は難しいことから、PFI手法等の事業スキームを採用するとともに、公共が一定の方向性(戦略)や役割を明示・発揮しながら周辺開発等を進め、対象エリア全体のポテンシャルを向上させることで、民間開発の可能性があることを確認。
- 上記結果は、各種ヒアリング等を通じて把握された民間事業者の同エリアへの投資意向とも整合しており、求められる全体施策の方向性を裏打ちするものである。

(施設配置計画案<平面図>)



(施設配置計画案<断面図>)



施設の概要

ウォーターフロント地区(阪神高速道路京橋ランプ・PA付近)



今後の展望

○今後の予定

- 都市高速道路の大規模更新に向けた計画及び事業期間の確定・更新により、エリア全体の方向性を明確化
- 神戸市と民間事業者の連携によるWFと官民一体となったまちづくりを推進

○事業化にあたっての課題

- 民間事業者の投資を促進する周辺エリア一体の開発計画の検討(早期からの民間事業者の参画が望ましい)。
- 民間事業者の参画に向けた条件設定と官民の分担
- 交通結節機能高度化に不可欠な公共交通機関等の整備計画及び連携方策の具体的検討
- 道路の上部空間の一部活用に向けての道路関係者(阪神高速道路(株)等)との十分な協議